

第6章

国立国会図書館における満鉄資料の所蔵状況

しら いわ かず ひこ
白 岩 一 彦

(国立国会図書館主題情報部主査)

はじめに

I データベース検索による所蔵数の把握

II 国立国会図書館所蔵満鉄資料の概要

おわりに

はじめに

「国会図書館には満鉄資料がどれくらいあるのですか」と聞かれると、いつも返答に窮する。というのも、それについては、ごく大雑把な数字しか存在しなかったからである。そこで、本稿では、国立国会図書館(以下、「国会図書館」という)が現在所蔵している満鉄資料の和書、洋書、文書等のグループごとに、概算ではあるが具体的な数字を調べ、全体の概数を算出するとともに、特色のある資料についても言及することにした。

I データベース検索による所蔵数の把握

国会図書館での資料検索は、他の図書館がそうであるように、所蔵資料のデータベースを使って行う。国会図書館の場合は、NDL-OPAC というデータベースで検索することになる。一番簡単なやり方としては、「満鉄」という言葉をキーワードにして、著者、書名などの検索窓ごとに検索をかける方法がある。この方法でNDL-OPACを検索し、合わせて、内外の満鉄資料所蔵機関のデータベースも検索し、表1のような結果を得た。

この表からわかるように、「満鉄」に関する日本語資料を一番多く持っているのはLibrary of Congress すなわち米国議会図書館ということになる。その次に多く「満鉄」に関する資料を持っているのは早稲田大学図書館、その次が国会図書館、そしてその次がアジア経済研究所ということになる。ただし、この場合、書名検索やフリーターム検索でヒットした資料には戦後の満鉄研究書も含まれるため、本来の満鉄資料、すなわち満鉄が主体的に作成した資料の数とは一致しないが、各機関が所蔵する満鉄資料の概数はつかめる

表1 内外主要機関の「満鉄」関係資料所蔵状況（注1）

	国立国会 図書館 (注2)	総合目録 (注3)	NACSIS Webcat	アジア経 済研究所	東京大学	早稲田大 学図書館	Library of Congress (注4)
タイトル 検索	698	1085	519	1692	—	425	766
著者名 検索	2418	613	461	955	561	41	767
出版者 検索	431	649	298	665	161	315	—
フ リ ー ターム検 索	—	—	940	1778	1179	2480	2749

(出所) 筆者作成。

(注1) 「満鉄」をキーワードとして各機関ないし連合目録のデータベースを検索した結果を表示。数値はタイトル数を示すが、『満洲植物誌』(1927-1933)のように1タイトルで複数の巻から成るものも多いので、結果的にタイトル数よりも冊数の方が多くなる。なお、「南満洲鉄道」をキーワードとして検索すると、この表の数字と比べてかなりの増減がみられるので、両方の検索結果をあわせて検討することが必要であろう。ただし、「南満洲鉄道」で検索しても、国会図書館所蔵資料のタイトル数の最大値は、著者名検索による2572タイトルであり、「満鉄」で検索した場合と比べてそれほど変わらない。検索実行日 2008年9月20日。

(注2) 雑誌を含む。国会図書館のデータベースNDL-OPACの検索の仕方は、次の通り。

国会図書館ホームページ <http://www.ndl.go.jp> →資料の検索 →NDL-OPAC →一般資料の検索/申込み →書誌 一般検索(和書と和雑誌新聞の口にチェック) →検索窓に検索したいタームをいれて検索。

(注3) 国会図書館を含む国内主要公共図書館所蔵資料の連合目録で、データ件数は現在2500万件を越える。検索の仕方は次の通り。

国会図書館ホームページ →資料の検索 →総合目録 →総合目録ネットワークシステム →検索画面。

(注4) 'Mantetsu' という形にローマ字化して検索。'Minami Manshu Tetsudo' で検索すると、フリーターム検索で5450タイトルがヒットするので、Library of Congress 所蔵満鉄資料については、こちらの方が実数に近い数字であると思われる。(2009年2月27日再検索)

であろう。ことに、国会図書館の場合、「満鉄」の資料が最も多くヒットしたのは著者名検索の場合であるが、この場合、満鉄が著者とみなされていることから、ここでヒットしたもの 2418 点は満鉄が主体的に作成した資料、すなわち本来の満鉄資料と考えてよいであろう。

そこで、国会図書館で所蔵している満鉄資料の数は、おおよそ 2400 点ということになるが、長年国会図書館で勤務してきた筆者の実感からすると、これはかなり少なめの数字のように思える。その上、国会図書館の場合、これらの満鉄作成資料のほかに、満鉄東亜経済調査局が収集した洋書コレクション 2 万 3000 点があり、さらに国会図書館憲政資料室所管の満鉄関係文書や、米国議会図書館所蔵の満鉄資料約 3000 点のマイクロフィルム版コレクションなどもある。そこで、国会図書館所蔵の満鉄資料の数は、満鉄作成の資料及び関連資料と満鉄が収集した資料を合わせ、かつ、マイクロフィルム版で所蔵している他館所蔵資料を含めると、およそ 4 万 5500 点に上ることがわかった。

以下、国会図書館所蔵の満鉄資料について、資料のグループごとに解説する。

II 国立国会図書館所蔵満鉄資料の概要

1. 満鉄東亜経済調査局洋書コレクション

満鉄東亜経済調査局は、1908 年に満鉄内に創設された調査機関で、1929 年に財団法人東亜経済調査局として独立したが、1939 年に満鉄東京支社の下部組織として満鉄の組織内に復帰した。東亜経済調査局は、豊富な予算と人員を背景に、世界主要国の植民地支配を知る上で参考になる洋書を買集めて調査研究を行っており、その蔵書は和書、洋書、漢籍を合わせて 10 万点以上あったと考えられている。太平洋戦争における戦局の悪化とともに、空襲によるこれら資料の焼失が危惧されるようになったため、和書と洋書は福島市近郊に移送され、敗戦の日を迎えた。米国占領軍は、進駐後まもなく福島市にやって来て、東亜経済調査局所蔵の和書コレクションを根こそぎ持っていったが、洋書コレクションは、ロシア語やアラビア語のものを除き、そのまま置いていった。こうして、米国占領軍が東亜経済調査局の蔵書を持ち去ったという事実があるため、日本では、満鉄関係者も満鉄研究者も、東亜経済調査局の蔵書はすべて米国に持っていかれたと思っている人が多いが、実際には、福島に移送された東亜経済調査局の洋書コレクションの大部分(約 2 万 3000 点)は満鉄の財産として残り、当時設立されたばかりの国会図書館へ 460 万円で一括譲渡された¹。

こうして国会図書館へ譲渡された東亜経済調査局旧蔵洋書コレクション 2 万 3000 点のうち、製本済みの雑誌 5000 点は比較的早く整理され、閲覧に供されたようであるが、残りの図書 1 万 8000 点は、長く整理されずに放置されたままであった。というのも、戦時中という非常事態の中で荷造りして福島へ送り出された資料群なので、文献リストが作成されておらず、整理の手がかりがなかったからである。これらの東亜経済調査局旧蔵資料

が簡易整理されて利用に供されるようになったのは、購入後 20 年近くたった 1960 年代後半のことであった²。

この満鉄東亜経済調査局旧蔵資料には、英、仏、米、蘭などの欧米主要国の植民地支配の実態を知るために必須の資料である各国語の年報、調査報告などが含まれ、また、植民地各地域の実情を知るための研究文献も豊富に収集されているので、今日でも利用価値は高い³。

2. 満鉄飯田橋倉庫保管資料(飯田橋資料)

米国占領軍は 1945 年 9 月 30 日に満鉄東京支社を封鎖して満鉄の消滅を宣言し、その時満鉄東京支社内に残っていた資料は、福島で接収された東亜経済調査局所蔵資料と同様、米国に運び去られたようである。ただし、米国側が見落としていた満鉄資料が東京に残っていた。それが、満鉄飯田橋倉庫に保管されていた満鉄東京支社及び東亜経済調査局の所蔵資料約 3300 点(複本を含む)で、これらは、刊行物、極秘の印刷物、文書ファイルなど雑多なものが倉庫に運び込まれ、ほこりをかぶっていたもので、1.の東亜経済調査局の洋書コレクションと抱き合わせで購入するよう満鉄側が国会図書館に要求し、国会図書館が 66 万を追加支出して購入したものである⁴。

これらの満鉄飯田橋倉庫保管の資料(以下「飯田橋資料」という)には、普通の出版物はむしろ少なく、大方は「秘」、「極秘」などの文字が印刷または押印してある資料で、きわめて重要な資料群と言うことができるが、満鉄飯田橋倉庫にしまっただけで資料リストもなく、国会図書館でこれら飯田橋資料を整理して利用に供することができるようになったのは、購入後 30 年を経た 1978 年から 79 年にかけてのことであった。

なお、これらの飯田橋資料のうち満鉄鉄道総局の『機関車運転統計月報』(極秘)など最も重要なもの約 600 点は、アジア経済研究所図書館のデジタルアーカイブス「近現代アジアのなかの日本」に画像が収録されているので、日本全国どこにいても簡単に見ることができる。

3. 米国議会図書館所蔵満鉄資料(マイクロフィルム版)

現在米国議会図書館に所蔵されている満鉄資料は 7000 点を数えるが、これらは、米国占領軍が福島や東京から運び去った日本語資料が移管されたものである。その全貌は、アジア経済研究所が 1979 年に刊行した『旧植民地関係機関刊行物総合目録—南満洲鉄道株式会社編—』で明らかになり、国会図書館ではこの目録記載の資料のうち日本にないもの約 3000 点を収集することに決定した。国会図書館は、米国議会図書館と折衝の上、1984 年まで足掛け 6 年にわたり職員をワシントンの米国議会図書館に派遣し、これら資料のマイクロフィルム作成の監督を行った⁵。

このような経緯を経て、米国議会図書館にのみ所蔵が確認された満鉄資料約 3000 点のマイクロフィルム版全 259 巻が『満鉄刊行資料』として国会図書館に収蔵され、同館資料提供部図書課別室で利用に供されている。また、同じマイクロフィルム版満鉄資料の同一セットがアジア経済研究所図書館や早稲田大学図書館にも所蔵されており、アジア経済研

究所図書館所蔵のものはデジタルアーカイブス「近現代アジアのなかの日本」に収録され、画像で見ることができる。

4. 国会図書館憲政資料室所管の満鉄関係文書

国会図書館主題情報部の憲政資料室には、近代日本の政治家、軍人、財界人などの個人文書が多数収蔵されているが、それらの中に、満鉄に関わりのある文書を含むものがあるので、それらを以下に紹介する⁶。

- (1)後藤新平関係文書(後藤新平記念館所蔵) (初代満鉄総裁後藤新平の文書約 13 万ページ。マイクロフィルム版 88 巻、うち満鉄総裁時代のものは 4 巻)。
- (2)四倉峯雄関係文書(第 2 代満鉄総裁中村は公の秘書を務めた四倉峯雄の文書。中村総裁宛の書簡 28 通、中村総裁発信の書簡 10 通を含む)。
- (3)阪谷芳郎関係文書(1907 年から 1908 年の満鉄関係文書 28 点を含む)。
- (4)小日山直登関係文書(元満鉄総裁小日山直登の文書。1922 年の満鉄事件関係文書 11 冊を含む)。
- (5)齋藤實関係文書(満洲や満鉄に関係する文書約 100 点が含まれている)。
- (6)大野緑一郎関係文書(関東局総長を務めた大野緑一郎の文書。20 点ほどの満鉄関係資料を含む)。
- (7)武部六蔵関係文書(関東局司政部長、関東局総長を歴任した武部六蔵の文書。「備忘録」全 12 冊の中に満鉄関係の記述あり)。
- (8)八田嘉明関係文書(元満鉄理事八田嘉明の文書 1593 点。マイクロフィルム版 42 巻。そのうち満鉄関係のものが 606 点、マイクロフィルム 14 巻を占める)。
- (9)山崎元幹関係文書(最後の満鉄総裁山崎元幹の文書のうち、国会図書館購入の 172 点。マイクロフィルム版 4 巻)。
- (10)満鉄関係文書[憲政資料室収集文書 1319] (1935 年から 1943 年にかけて作成された、満洲、北中国の工業や財政、農産物、海上保険等に関する資料 47 点。満鉄経済調査会、調査部等が作成した資料を含む)。

5. 他機関所蔵の満鉄関係資料(文書類)

国会図書館では、米国議会図書館所蔵満鉄資料のマイクロフィルム版のほかにも、他機関所蔵の満鉄関係資料のマイクロフィルム版を次のように所蔵している。

- (1)後藤新平文書(既出)。
- (2)井上匡四郎文書(國學院大学図書館所蔵) (撫順炭鉱、鞍山製鉄所関係資料を中心とする文書約 1 万 3000 点。マイクロフィルム版 168 巻)。
- (3)村上義一文書(慶應義塾大学図書館所蔵) (元満鉄理事村上義一の文書約 1000 点。マイクロフィルム版 18 巻)。
- (4)八田嘉明文書(早稲田大学現代政治経済研究所所蔵) (既出)。
- (5)山崎元幹文書(小田原市立図書館所蔵) 元満鉄総裁山崎元幹旧蔵資料のうち 439 冊のマイクロフィルム版 82 巻。「重役会議決議録」や「処務週報」等の重要文書を含む)。

(6)南満洲鉄道関係外務省文書(外務省外交史料館所蔵) (1906年から40年までの「南満洲鉄道関係一件」全16冊。マイクロフィルム版12巻)。

これらのマイクロフィルム版満鉄関係資料は、米国議会図書館所蔵満鉄資料と同様、国会図書館資料提供部図書課別室で利用に供されている。(後藤新平関係文書と八田嘉明関係文書は主題情報部憲政資料室での閲覧となる)。

6. 旧帝国図書館所蔵の満鉄資料

旧帝国図書館は、内務省検閲済みの出版物を交付される納本図書館であり、戦前の日本で刊行される資料は、検閲にひっかからない限り、旧帝国図書館に入っていた。しかし、満鉄刊行資料の場合、刊行地が満洲国という外国にあったため、納本の対象外であった。そのため、旧帝国図書館所蔵資料の中の満鉄資料は、寄贈によるものがほとんどで、それらは筆者の推計では1000点ほどになる。これらは通常の刊行物であり、秘密扱いのものはないようである。

7. 満鉄資料の復刻版

近年、日本でも中国でも満鉄資料の復刻版が刊行されるようになった。日本では龍溪書舎が1986年から2000年にかけて『満鉄資料叢書』16タイトル41冊を刊行しており、国会図書館にも納本されている。

中国では、遼寧省档案馆編の『満鉄密档』シリーズを始めとして、満鉄の秘密資料(秘密印刷物、文書等)の復刻が盛んに行われており、国会図書館関西館でもこうした満鉄資料の復刻版を7タイトル166冊所蔵している。

おわりに

以上、他機関所蔵の資料のマイクロフィルム版を含め、国会図書館で見ることのできる満鉄資料を概観してみた。その概数は、グループ別になると次のようになる。

(1)満鉄東亜経済調査局所蔵洋書コレクション	2万3000点
(2)満鉄飯田橋倉庫保管資料(飯田橋資料)	3300点
(3)米国議会図書館所蔵満鉄資料(マイクロフィルム版)	3000点
(4)国会図書館憲政資料室所管満鉄関係文書(八田嘉明文書を含む)*	1000点
(5)他機関所蔵の満鉄関係資料(文書類)。マイクロフィルム版	1万4000点
(6)旧帝国図書館所蔵の満鉄資料	1000点
(7)満鉄資料の復刻版	200点

* 後藤新平文書は、満鉄関係の資料数の算定が困難なので除外してある。

これらを合算すると、国会図書館における満鉄資料及び関連資料は4万5500点となる。

このうち、満鉄が自ら作成した資料の現物は、(2)の飯田橋資料 3300 点と、(6)の帝国図書館旧蔵満鉄資料 1000 点、計 4300 点となる。その他に、憲政資料室で所管する文書のうち満鉄関係のものの現物が 400 点以上あるので、国会図書館で見ることのできる満鉄資料及び関連文書の現物は、合計で 4700 点ほどとなる。ただし、これらの現物資料はいずれも紙が劣化しており、早急な保存対策が必要とされている。

-
- 1 白岩一彦「国立国会図書館所蔵満鉄文書概要と主要文書案内」『参考書誌研究』第 69 号(2008.10)、28 ページ参照。
 - 2 飯田和子「“くずのようなもの”から—満鉄調査資料受入れ覚え書—」『国立国会図書館月報』No. 312(1987. 3)、14-15 ページ参照。
 - 3 国会図書館が購入した東亜経済調査局の洋書コレクションがすぐれたものであったことの一例としては、フランスのイスラーム学者 Claude Cahen の主著 'La Syrie du nord à l'époque des Croisades et la principauté franque d'Antioche' (Paris, 1940)が所蔵されていたことが挙げられる。第 2 次世界大戦中にフランスで刊行されたこの本は、イスラーム期のシリア史に関する基本的研究書の一つであるが、現在のところ、日本国内では国会図書館と東京大学(社研)のほかには所蔵がない。
 - 4 東亜経済調査局の 2 万 3000 点の洋書コレクションが 460 万円、すなわち 1 点あたり 200 円で売却されているので、この価格を飯田橋資料にもあてはめると、66 万円÷200=3300、すなわち飯田橋資料の総数は 3300 点ということになる。
 - 5 千代由利「国立国会図書館の満鉄資料—LC 所蔵満鉄資料の収集プロジェクトを終えて」『びぶろす』第 35 巻第 6 号(1984.6)、135-139 ページ参照。
 - 6 国会図書館憲政資料室所管の文書については、堀内寛雄「憲政資料中の戦前期朝鮮・台湾・中国東北部関係資料」『参考書誌研究』第 69 号(2008.10)、1-24 ページ参照。
 - 7 中国で復刻され、国会図書館関西館で所蔵している満鉄文書集の一覧については、国会図書館のアジア言語 OPAC (国会図書館ホームページ参照)並びに下記を参照。
白岩一彦「南満州鉄道株式会社の諜報ネットワークと情報伝達システム—1930 年代後半のイスラーム関係満鉄文書をめぐって」(坂本勉編著『日中戦争とイスラーム—満蒙・アジア地域における統治・懐柔政策』慶應義塾大学出版会 2008 所収)、126 ページ注 3)。